

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	大阪大学				
取 組 名 称	知的能動性をはぐくむ理学教育プログラム				
取組学部等	理学部				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11044	申請の形態	単独	取組期間	3年
申請の分類	専門基礎	キャリア			
キーワード	知的能動性, 意識の質の向上, キャリアパスデザイン教育, 理学ベーシック				

<選定理由>

本取組は、これまでの人材育成に関する堅実な取り組みを基礎に、より正確な現状把握、分析をしようとする姿勢のもとによく練られたものとして評価できる。

また、目的が明確で教育への熱意がうかがわれ、FDに対する取り組みも熱心である。学生の参加を重視し学生の意識を高める取り組みとしても評価でき、全体に良く計画された取組と言える。

実施に際しては、困難な課題ではあるが、主体性、能動性の不十分な学生の意識の質をいかにして高めるかについて工夫しつつ、着実に成果を上げることを期待したい。

取組の概要【1ページ以内】

大阪大学理学部では、「本学部における教育は、幅広い自然科学の基礎に裏付けられた柔軟な発想を身に着け、自然に対する鋭い直感と的確な判断力を養い、その素養を背景にして社会に貢献する人材を育成する」という人材養成に関する目的(教育理念)の下、教育改革を早くから進めてきている。特色GP「**進化する理学教育プログラム**」では、基礎科学に関する広い視野を持ってもらうため、**理学ベーシック**を重視した「**理学ミニマムカリキュラム**」を新設した。これに合わせて各学科の専門教育カリキュラムも大幅な改定が行われた。また、理数学生応援プロジェクト「**理数オーナープログラム**」を通して、特に意欲のある学生を積極的に伸ばす教育にも着手している。さらに本年度から、融合分野を切り拓く人材の育成コースとして、数学、物理学、化学に豊かな素養を持つ生命科学者の育成をはかる「**生命理学コース**」を新設した。このように、本学部では、常に長期的視野に立った先導的な教育改革と改善を行い、教育カリキュラム上では**質の高い教育**を保障する枠組みは整備されてきている。

これらの取組によって、多くの卒業生を、比較的高い満足度を持たせて大学院、企業、教育界などに送り出すことに成功している。しかし、高校教育から続く受動的な学習態度が克服できていない学生が少なくなく、個々の学生の持つ優れた資質を十分に引き出し育てているとは言えない。したがって、本学部で次に必要とされる「**教育の質の向上**」は、幅広い視野に立って自分の将来展望を能動的に描き、「学ぶ」モチベーションを高く持って学ぶという、学生の「**意識の質の向上**」である。本提案は、従来の教育カリキュラム等では対応が困難なこの課題に挑戦するものである。

そのために、図に示すように、1年次の「**理学ミニマムカリキュラム**」による導入教育の成功の上に、「各学科の専門教育」に繋がり重なる形で、以下の3種類の取組を行う。

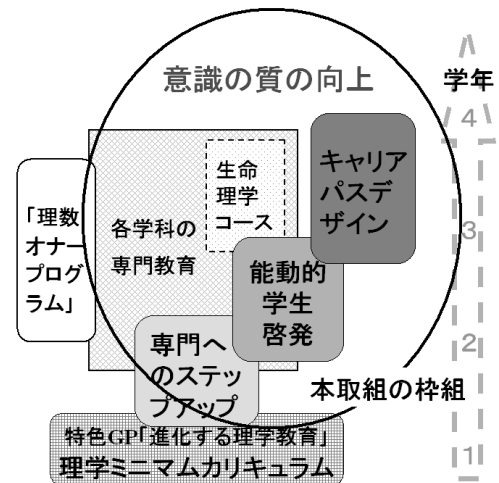


図. 本取組の概要

- (A) 「**理学ミニマムカリキュラム**」と専門教育科目をつなぐ科目や実験・実習・演習など、能動性を高める科目「**専門へのステップアップ教育**」の実施と、実験や演習教育環境の整備、
- (B) 学生を主体とした**知的能動性**を高める取組「**能動的な学生啓発プログラム**」の実施、
- (C) 社会や先端研究を意識させ、能動的に将来展望を描かせる「**キャリアパスデザイン教育**」の導入。

具体的には、「**理学ミニマムカリキュラム**」を修了した2、3年次の学生を対象に、主体性が要求される各種の実験や演習、学生企画による合宿やセミナーなどを各学科に適した形で行い、「**将来展望ワークショップ**」を開催する。

本プログラムの実施に当たっては、教員とTAに加え学生自身も主体的に参画する。したがって、既存の学務評価委員会や教員による反省会における教育現場の状況把握、分析、フィードバックのシステムに加え、学生やTAを交えた「**能動性プログラム懇談会**」を行う。これによって、これまでのPDCAサイクルをさらに**充実**させ、本プログラムを継続的に改善しつつ確実に実行する。また、本取組の情報やノウハウは、広く他大学とも共有し、「**理学ミニマムカリキュラム**」とともに理学系学部教育のモデルシステムを構築していく。